

二月六日。幕府、攝津之親に、河北郡倉月莊等を安堵せしむ。

【美吉文書】 武藏

八八〇

近江國柏木御厨參分壹、加賀國倉月庄、駿河國益頭庄、武藏國小澤郷、同國小机保内重富名、洛中所々屋地等事、早任亡父常承讓狀之旨、攝津掃部頭之親領知不可有相違之由、所被仰下也。仍下知如件。

寶德四年二月六日

沙彌 在判

享德二年

癸酉

紀元二二一三

三月廿八日。宗彦、鹿島郡永光寺傳燈院に、羽咋郡大坂の田地を寄進す。

【永光寺文書】 鹿島郡

八八一

奉寄進 永光寺傳燈院田地之事

合參百疇者 坪付者見本狀

右田地者、能州羽咋郡大坂之内、限永代於參百疇、手續證狀相添候て、寄進申所實也。御年貢ハ毎年御米拾貳俵

宛也。若於此下地、累世仁違亂之輩候者、自公方被召出、爲御沙汰堅可預御罪科者也。仍爲後證寄進狀如件。

享德貳年三月廿八日

能州羽咋郡大坂住僧 宗彦 在判

四月廿一日。尾長秀吉、鹿島郡永光寺に、羽咋郡尾長保を沽却す。

【永光寺文書】 鹿島郡

八八二

永代賣渡申尾長保二〇職畠事

合七百畠 (文脈カ) 壹ヶ所在所たかばたけ 此地子三百文

壹ヶ所同在しまばたけ 此地子四百文

右彼畠者、秀吉重代相傳之地也。雖然依有要用、代析足七貫文仁永代賣渡申處實也。但彼畠ニおきて、一族身類又他國者にても候へ、此畠の支證と申候て持出候はん者出來候はゞ、盜人として堅可有罪科者也。仍爲後日永代賣けんの狀如件。

享德貳年四月廿一日

永代賣主

尾長九郎

能登國一宮住人

秀吉 在判

(この文書の年號を一に貞治に作るものあるは非なり。)

八月廿二日。能登守護畠山義忠、氷室兵庫入道をして鳳至郡總持寺住持禮物の事を沙汰せしむ。

【總持寺文書】 鳳至郡

八八三

相國寺領楠比庄内惣持寺住持一代禮物事、任御奉書之旨、可被存知之由候也。仍執達如件。

享德貳

八月廿二日

忠光 在判

氷室兵庫入道殿

享德三年

甲戌

紀元二二一四

正月。鳳至郡總持寺、檀方の年禮及び引物等の注文を作る。

【總持寺文書】 鳳至郡

八八四

(卷上書) 年頭日記

享德三年

且方年始之禮并引物等之註文

壹貫文本郷

正月八日使節者納

本郷而有返報、染物一ヶ一束一本

自本郷回禮之時壹貫文持來、方丈而貳貫文百扇子一本可出之。若空手而來者、只壹貫文扇子一本也。

又納所使節之時無返報而、又回禮空手而來者、自常住不可有引物者也。

壹貫文吉見方同十日使節納所也。禮之次第如前。

楠比方若禮來者、方丈而百扇子一本中折一束可有之。若不來、不可有也。自常住之回禮者、以待者空手而可至。

右各々禮來時者、自湯茶子外不可有安排也。

自且方之引物、時之住持私受用之。於末代堅可守此旨、以私之志而不可有加増之分者也。衆評如此。

享德三年正月吉日

當住 宗勢 在判

傳法庵道淳

在判

如意庵良才 在判

洞川庵韶竺

在判

妙高庵靈哲 在判

普藏院玄文 在判